



こころの医療センターファミリーサポートセミナーを始めました 令和5年山口県高次能機能障害リハビリテーション講習会 診療のご案内

編集:広報委員会

発行:山口県立こころの医療センター

山口県宇部市東岐波4004-2 TEL:0836-58-2370(代表)





山口県立病院機構





漢方薬を考える



しんぞう たつや

精神科医 新造 竜也

皆様、漢方薬を使用されたことがありますか。 葛根湯(かっこんとう) などは、名前ぐらいなら聞かれたことがある人も多いのではないでしょうか。

現在は医学教育でもコアカリキュラムの中で「漢方医学の特徴や、主な和漢薬(漢方薬)の適応、薬理作用を概説できる」といった目標がたてられていますが、そういったカリキュラムがしっかりと整備されてきたのは2010年代半ばぐらいからかと思います。私たちが医学生の時代は医学部の正式カリキュラムの中に「漢方医学」はなく、東洋医学研究会といったサークル的な集まりで一部の医学生が教室の片隅でひっそりとやっていた印象があります。私は漢方を専門にしているわけではないのですが、時々漢方薬を処方することもあり(抑肝散などは精神科でもよく使用されています)、少し掘り下げてみたいと思います。

漢方医学的診断法について

漢方には独特な診断法がありますが、かなり深い世界になりますので(私もうまく説明しきれません)割愛致します。ただし、それでも漢方薬を使用することは可能です。

「証(しょう)」という概念があり、

実 証

抵抗力がある(がっちりタイプ)

虚証

抵抗力がない(虚弱タイプ)

という分け方と、病状の経過時間などから(熱証、寒証等の分類もあり)、その時の症状にあてはまる薬剤を探していく、と概ね御理解頂ければ良いかと思います。

漢方薬の限界を知っておく

ここでは精神科疾患に限定してお話させて頂きます。精神科疾患の中には、 漢方薬を基本的に使用しない疾患があります。

以下、列挙しますが、

- ●統合失調症
- ●双極性感情障害(躁うつ病)
- ●認知症の中核症状(記憶力低下、見当識障害、失語、失行、失認など)
 - →逆に、周辺症状には抑肝散をよく使用します。
- ●てんかん

といったところでしょうか。これらについては西洋薬で治療します。

一方、身体不定愁訴といわれるような症状には、漢方薬に強みがあるという印象です。

精神疾患に効果があると言われている漢方薬

以下、精神・神経疾患に効くと言われている代表的な漢方薬の名前(番号は(株)ツムラの製品番号)と効果を簡単に列挙します。ただし、当院で扱っているものはあまり数がありませんので、現時点で当院採用があるもの(臨時採用薬は除く)は●、臨時を含め採用がないものは○をつけておきます。また、その他例えば葛根湯など、ここに記載していない漢方薬でも極少数ではありますが当院で採用している物があります。

(以下についての処方内容は、「新見正則、本当に明日から使える漢方薬、新興医学出版社、2011、P90、9784880027067」から引用)



まず試したい処方



●加味逍遙散 ㉔ 更年期障害もどき、くよくよ、イライラ

○女神散 ⑥ 同じことをいつまでも繰り返す、実証

●抑肝散 54 認知症の周辺症状、不眠、怒りっぽい、月経前のイライラ

●柴胡加竜骨牡蛎湯⑫ 実証のイライラ

●半夏厚朴湯 ⑯ 喉のつかえ感(経過が長い時は柴朴湯 ⑯)

○呉茱萸湯 ③ 偏頭痛

○釣藤散 ④ 早朝の頭痛、脳血管障害、軽いうつ(香蘇散 ⑩ も)

○半夏白朮天麻湯 ③ 虚証のめまい ○加味帰脾湯 ③ 老人の不眠

上記で効かないときの処方



●補中益気湯 ④ 上記で処方が決まらず元気もない時

●六君子湯 ^④ 上記で処方が決まらず胃もたれもある時

○柴胡桂枝湯 ⑩ 上記で処方が決まらず心身症の傾向もある時

漢方薬にも副作用がある

漢方は基本的に動植物を原料とする生薬の組み合わせで構成されており比較的安全性は高いのですが、副作用がないわけではありません。紙面の都合もあり詳細は専門書にゆずりますが、頻度の多い副作用としては胃腸障害、発疹、浮腫などがあります。また、特に重大な副作用として代表的なものは

間質性肺炎
低カリウム血症
肝機能障害
腸間膜動脈硬化症
の四つがあげられます。

当院は基本的に西洋医学・処方での治療が中心になります。それらの治療をおこなっていく過程で、西洋薬での治療が頭打ち(神経症圏の疾患が多い印象)になったりするケースが一定数あり、こういった方には漢方薬が治療手段の一助となる場合があります。漢方薬を使用するかどうかは個々のケースにより主治医の判断となりますが、上記のような副作用などがあることも御理解頂いた上で、担当医師と相談されても良いかもしれません。
(薬剤監修 薬剤部 守田 和彦)

こころの医療センターファミリーサポートセミナーを始めました

2023年

場所・時間: 当院の2階会議室 各日15:00~16:30

対象者: 当院に、ご入院またはご通院の患者さん(統合失調症)のご家族

参加費:1,000円(初回参加時のみ資料印刷代等)

申込方法:事前申込み制 ※開催日の10日前までにお申し込みください

主治医や看護師、相談員などへお声かけいただくか、

下記の問合せ先へ(参加者氏名、患者氏名、連絡先を)ご連絡

ください

内 容:前半/講義 後半/懇談 (参加者同士で共に考え励ましあう場)

1 回 9/1(金) 2回 10/6(金)

3 回 11/10(金) 4 回 12/1(金)

Ħ

ご家族の皆さまが正しい知識を知り、 共に考え、励ましあえる場をもつことで、 無用な不安や心配から解き放たれ、 より前向きに希望をもって 病気に立ち向かっていけるために



1 9/1	「統合失調症の基本的知識」 統合失調症とはどのような病気なのか、原因、頻度、経過、症状、治療法などについて確認します。
2 10/6	「ご家族が抱える困りごと・問題解決技法を用いた考え方」 ご家族がご本人をケアしているときに感じるさまざまな困りごとを取り上げます。また、問題解決技法を 使った考え方についても紹介していきます。
3 11/10	「 ご本人への関わり方・コミュニケーション 」 多くのご家族が知りたいと思っているご本人への関わり方について学び、どのような接し方をすると回復が 促されるのかを学んでいきます。
4 12/1	「ご家族のリカバリー」 ご家族が心身共に健康を保ち、生き生きとご自身の人生を歩んでいくための方法について考えていきます。

問合せ先:山口県立こころの医療センター 地域連携室 石原・津波

電話: 0836-58-2370 FAX: 0836-58-6503 Mail: kokoro.psw@ymghp.jp

令和5年

山口県高次脳機能障害リハビリテーション講習会



日 時:令和5年11月5日(日)13:00~15:30

形 式:WEB研修会(Zoomウェビナーによる配信)



講演1 「高次脳機能障害の基礎知識と支援の現状について」

講師:国立障害者リハビリテーションセンター

顧問 深津 玲子 氏

講演2 「高次脳機能障害支援~介護者不在時の備えや支援体制について~」

講師:神奈川リハビリテーション病院

総合相談室 室長 瀧澤 学 氏

■ 申し込み: 令和5年10月19日(木) 締切 当院ホームページ(http://y-kokoro.jp) に 掲載されています事前登録フォームから お申し込みください。



■ お問い合わせ 山口県立ころの医療センター内 高次脳機能障害支援センター(新井・伊藤) TFI: 0836-58-1218(平円9時~17時)

診療のご案内





※最新は病院ホームページをご覧ください。

初診・再診とも予約制となっております。予めお電話でご予約されてご来院ください。

外来直通電話: 0836-58-2327





交通のご案内



お車/山口宇部道路「宇部東IC」より丸尾方面へ約5分電車/JR宇部線「丸尾駅」より徒歩約15分バス/宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩10分

地方独立行政法人 山口県立病院機構 山口県立こころの医療センター

〒755-0241 山口県宇部市東岐波4004-2

TEL: 0836-58-2370 (代表) : 0836-58-2327 (外来直通)

FAX: 0836-58-6503

こころの医療センター





https://www.y-kokoro.jp/